

○ Streptococcus pyogenes

劇症型 A 群レンサ球菌感染症 1987 年

Severe invasive streptococcal infection

Streptococcal toxic shock-like syndrome; TSLS or STSS

1994 年 英国マスコミ「人喰いバクテリア」

〔診断〕

- 1) { A 群レンサ球菌が分離 }
- 2) { 低血圧 90mmHg 以下 }
- 3) { 腎不全 72%、血液凝固障害 70% 肝臓障害 56%
成人呼吸窮迫症候群 31%
皮膚の浮腫性の紅斑 3% または上皮剥離
軟部組織の壊死 79% 中枢神経症状 38% }

のうち
3つ以上

の内、3 症候以上。

ある病院では

初発時に収縮期 90 mmHg 以下の低血圧と 100/ 分の頻脈発作後、18 時間で死亡、または多臓器不全となる例が半数で見られた。死亡率 40 %。
患者家族から同一型が分離されているが発症していない。

〔治療〕 感受性ならば

・ PCG 400 万単位 4h 毎 + clindamycin 600mg 4h 毎

・ ceftriaxone + clindamycin

壊死部の debridement (必須) ヒト免疫グロブリン有効

産褥熱 Puerperal fever

Ignatz Semmelweis

産褥熱は分娩終了後の 24 時間以降、産褥 10 日以内に 2 日間以上、38℃以上の発熱が続く場合。

近年の産褥熱はグラム陰性桿菌が主体。← 昔と今では菌が違ふ

帝王切開後では staphylococcus, streptococcus, Enterococcus が主体 (41 %)

グラム陽性球菌

猩紅熱 scarlet fever

発熱、嘔吐、咽頭痛などで急激に発症し、1~2 日後に全身性の発疹。

舌はいわゆるいちご舌

解熱後、手・足の皮膚の落屑

年齢の分布は 4 歳がピーク。

今はほとんど見ない。

すでに抗生剤で押さえるから。

溶連菌感染症

4~5 歳がピーク

丹毒 erysipelas

急速に拡大するびまん性の紅斑で、発熱、全身倦怠感、局所熱感、疼痛を伴う。

境界は明瞭、蜂窩織炎の類症で炎症の場合が蜂窩織炎より浅く、皮下組織に及ぶことはない。

顔面、下肢に好発する。

7~8 割

0.5~2 割



毛孔、汗孔より感染